

令和7年度 枚方トピックス7号

関西医科大学リハビリテーション学部作業療法学科 学生さんとの交流会

昨年度より、院内学級ではリハビリテーション学部の学生や先生方と職業に関する交流会を開催しています。(小学部社会科の授業)

交流会は和やかな自己紹介の後、ペットボトルのキャップ開けのシーンへと展開。「全然開かない時があるよ。」と話す子どもたちに、ペットボトルオープナーが登場。いとも簡単に開く様子に「これは便利やわ。」と驚きの声。やりたいけれど難しいことを支援し、「できた!」という喜びや自信につなげるのが作業療法士の役割という説明に、納得したようにうなずく子どもたちでした。



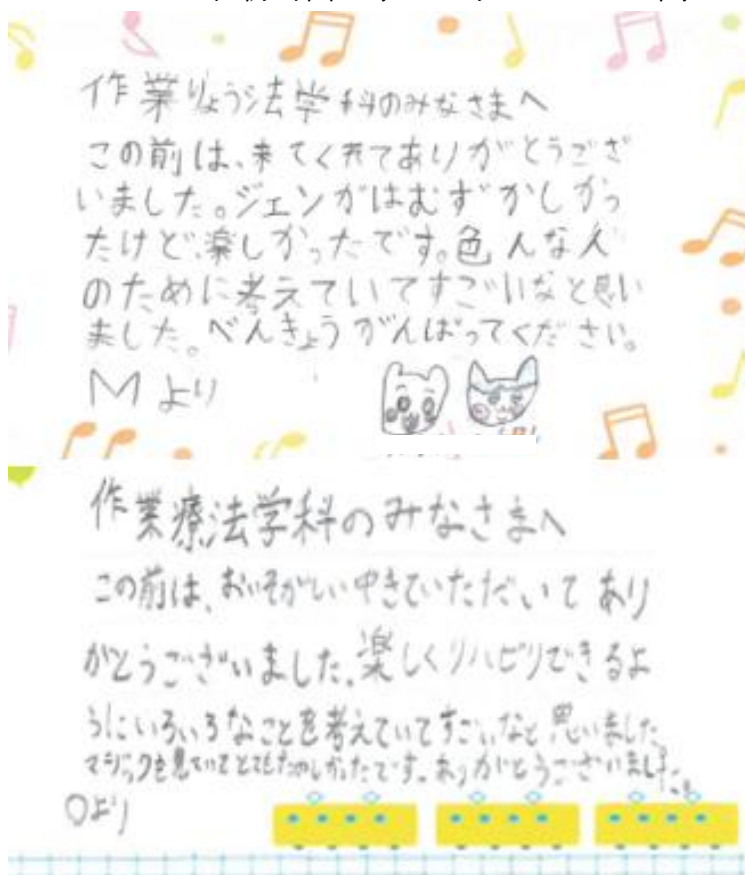
ペットボトルオープナー



作業療法学科の学生さんと先生方



次に、子どもたちの視界を遮り触覚だけで“お宝”を探すゲームや、驚きの連続のマジックショーを楽しみました。交流会や事後学習を通じて、作業療法士が患者に寄り添い、リハビリをより楽しく工夫して支援していることを理解できました。今回の交流会では、意図的に教員数や支援を減らしたことで、初対面の学生と子どもたちの間にも自由で活気あるやりとりや雰囲気が生まれました。



事後学習で、子どもたちが学生さんに書いた手紙